貴重図書展示「貴重書名品展」

期間：2023年4月4日（火）～6月30日（金）
場所：中百舌鳥図書館１階貴重図書展示ケース

物臭太郎絵巻（ものぐさたろうえまき）　写 一巻

室町時代物語。もと冊子本であったものを巻子に改装したもので、六十一紙を継いでいるが、そのときの錯簡、落丁が見られる。本巻は最も原絵巻に近いもので、かつ書写年代も原絵巻の成立時よりそれほど時間が経過していないものと考えられ、慶長期を下らぬ頃のものとされている。

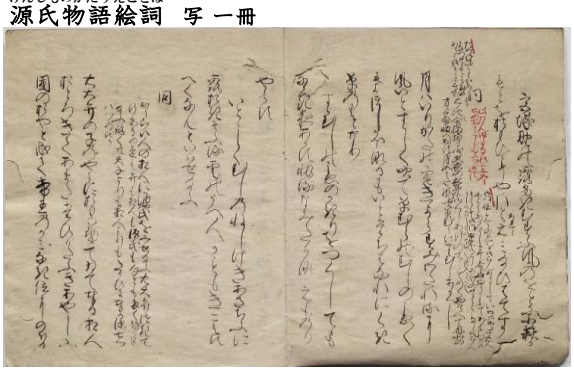
いぶき　刊　一冊
寛永九年（1632）

舞の本。整版丹緑本。幸若舞曲の刊本には古活字本と整版本があり、挿絵のあるものとないものがある。寛永頃に整版十行本が三十六番揃本として刊行されたが、本書はそれと同版。

あやね竹（だけ）　刊 三冊

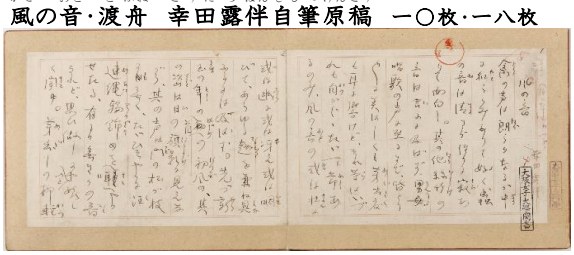
江戸の菱川師宣に匹敵する浮世絵の先駆者である上方の浮世絵師・大森善清による、中国古典を題材にとった「絵本」。そもそも本書は現存するものが極めて少なく、それだけでも貴重であるが、大阪府立大学本は現存唯一の完本であり、大森善清の画業を知るうえでの基準作となる。

げんじものがたりえことば
源氏物語絵詞　写 一冊



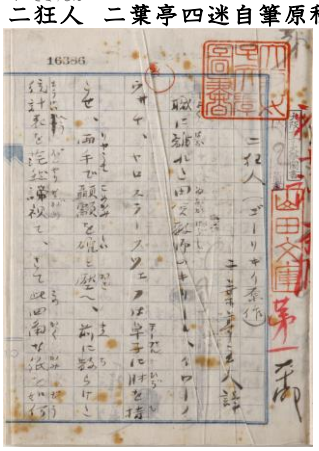
『源氏物語』の各巻から絵になりやすい場面を数ヶ所ずつ選んで本文を抜き出すとともに、その絵の内容を細かく指示したもの。冒頭に後陽成天皇即位前の筆跡である旨が注記されているが、その真偽はともかく、室町時代ごく末期の書写とみなしてよいだろう。

かぜ　おと　と ふね　こうだ ろ はんじ ひつげんこう
風の音・渡舟　幸田露伴自筆原稿　一〇枚・一八枚



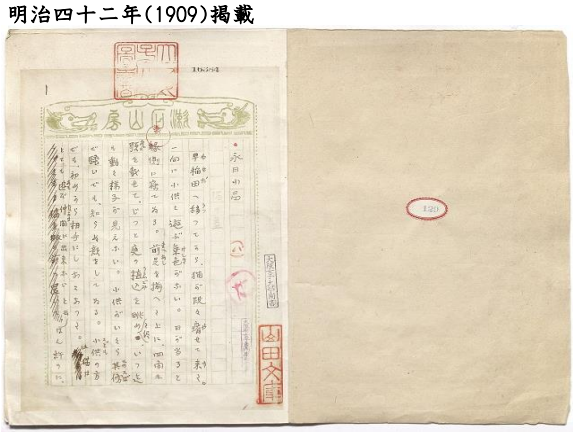
それぞれ「グラヒック」明治四三年（一九一〇）一月下旬号・二月下旬号に掲載されたもの。露伴が「折々草」の総題の下に、同誌に四回にわたって連載した、随筆的な小品四篇の内の二つにあたる。

に きょうじん
二狂人　二葉亭四迷自筆原稿　五〇枚



『新小説』明治四十年（一九〇七）三月号に掲載された、ゴーリキ原作、四迷訳『二狂人』の前半部分の原稿である。用紙は松屋製四〇〇字詰め、署名は「二葉亭主人」とある。こなれた訳文をめざす推敲のあとが随所に見られる。

ねこ　はか
猫の墓　夏目漱石自筆原稿
明治四十二年(1909)掲載



明治四十二年一月「朝日新聞」に『永日小品』の第八編として掲載されたもの。「吾輩は猫である」に使われた猫の死（四一年九月一三日）を描く。文中「彼」とさえ呼ばれる猫に以前名はなく、「猫の墓」の墓標の下に葬られる。

ウイルソン氏リードル双伍呂久（すごろく）　一枚
整版多色刷 明治十八年（1885）
岡本光訳 岡本信閲・松斎吟光画

大阪公立大学中百舌鳥図書館